

雲浜地区 いきいきまちづくりのために



平成 16 年 3 月

雲浜いきいきまちづくり委員会

ご 挨拶

小浜市では、平成13年度から15年度までの3箇年、地区ごとに手作りの地域計画を立案し、それに基づいて地域づくりの活動支援（新世紀いきいきまち・むらづくり支援事業）をスタートすることとなりました。

雲浜地区では、初年度に組織づくり（歴史的環境・自然環境・社会的環境の各委員会）を行い、14年度から「雲浜いきいきまちづくり委員会」を発足いたしました。

雲浜地区にはかつて小浜城があり、現在も、政治・文化・教育等の中心地であるとともに、小浜市で最も人口の多い地区でもあります。市内を流れる二大河川（北川・南川）や豊富に湧き出る地下水は、人々の食生活や健康を支え、豊かな自然と文化をもたらしました。

これらの自然や文化を活かし、将来の私たちの地区はどうあるべきか、地区皆様方のご意見を集約するためアンケート調査をさせていただき、その結果をもとに、どのような「まち」が望ましいかをまちづくり3部会で協議してまいりました。アンケート調査では皆様方に大変なご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

なお、このアンケート調査で、河川堤防に花を植えてはどうかという意見が多くあったことから、試みとして、地区皆様のご協力をいただき、西津橋下流の北川堤防に植栽し、綺麗な花を咲かすことができました。重ねてお礼申し上げます。

雲浜地区の特徴を活かし、住みよいまちにしたいと思い、この計画書をまとめました。今後は、この計画書を基に実践し行くことが何より大切であります。

最後になりましたが、「雲浜まちづくり」に一層のご協力をお願いいたしまして挨拶いたします。

平成16年3月

雲浜いきいきまちづくり委員会
委員長 岡本 英司

雲浜地区いきいきまちづくりのために

目次

第1章 雲浜地区はこんなところ	1
第2章 住みよい雲浜地区に	5
第3章 まちづくり提案	10
巻末資料-1 小浜城のあらまし	38
巻末資料-2 祇園祭りのあらまし	40
巻末資料-3 お城祭りのあらまし	42
巻末資料-4 郷土の偉人たち	43
巻末資料-5 アンケート結果（平成14年度実施）	47
雲浜いきいきまちづくり委員会組織表	67
あとがき	68

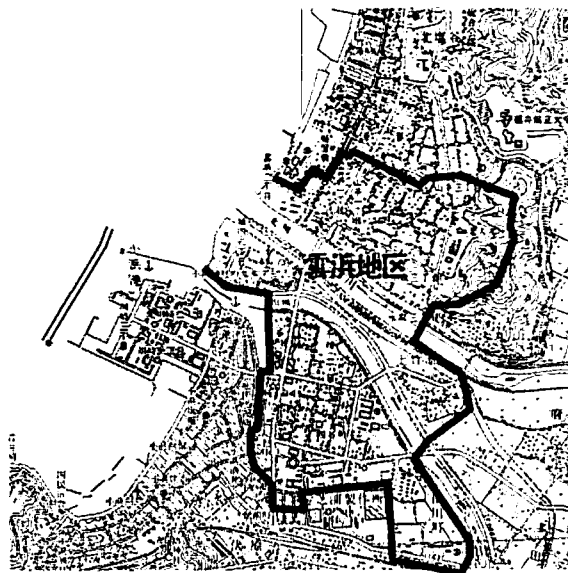
第1章 雲浜地区はこんなところ

1. 北川と南川が作った平野

雲浜地区は、小浜平野を流れる北川・南川の河口付近を中心に広がっています。山林は水取から山手にかけて鳥越山の西側斜面があるだけで、あとはすべて平野です。

北川は、滋賀県に源を発し、上中町を経て小浜平野を貫流し、雲浜地区で小浜湾に注ぐ一級河川（国が管理する河川）です。一級河川の中では最も水がきれいな川でもあります。

南川は、名田庄村に源を発し、名田庄村から中名田・口名田・今富地区を経て雲浜地区に流れ込み、小浜湾に注ぐ二級河川（県が管理する河川）です。小浜平野は、これら二大河川の運んできた土砂と、小浜湾の潮流や波によって運ばれた土砂によって埋め立てられた「沖積平野」です。



表層は砂地盤で、家を支えることができます。その下5mから10mの深さには軟らかい粘土層があって、さらにその下、深さ20~30mあたりに、豊富な地下水をたたえた砂礫（砂利）層があります。一番町の「雲城水」や上竹原などにある自噴井戸は、この砂礫層の地下水が湧き出しているのです。

水道のない時代、豊富できれいな地下水は、そこで生活する人々の食生活を支えていました。どこにでも井戸が掘れ、豊かに水が湧き出したからこそ、城下町・雲浜の成立も可能であったと申せましょう。

そしてその豊富な地下水を利用して、くずまんじゅうなどの特産品も生まれました。夏の風物詩であった「水まつり」は、この豊富な地下水に感謝する祭りでした。

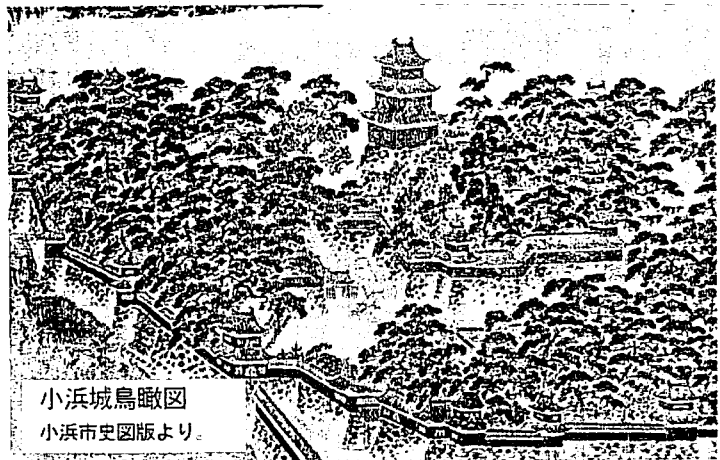
外で遊びまわった後に、湧き出る井戸水でのどを潤した記憶をお持ちの方も少なくないでしょう。まさに、豊かな地下水こそ雲浜地区の「食の原点」といえるでしょう。



2. 城下町・雲浜

雲浜地区の歴史は、実質的に江戸時代の小浜城築城から始まっています。

関が原の合戦後、若狭国守護となった京極高次は、手狭で不便な山城の後瀬山城を廃し、慶長6年(1601)から小浜湾に臨む蜘蛛の浜(後の雲浜)に水城を築き始めました。



そして、京極氏の後に川越から入封した江戸幕府大老の酒井忠勝が築城を完成させ、明治の廃藩まで酒井氏14代の居城となりました。

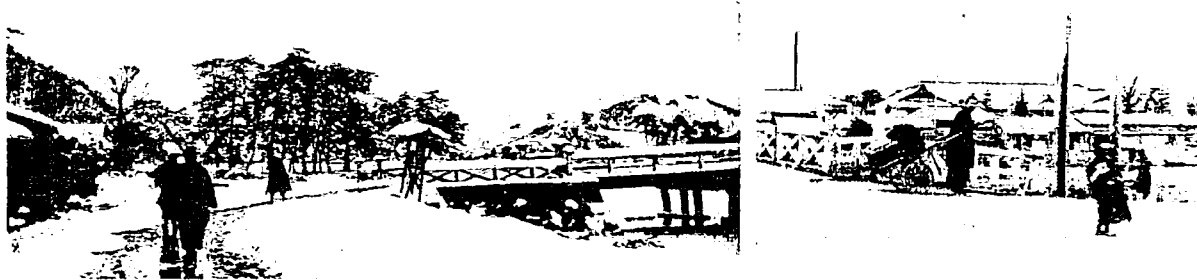
こうして小浜城が完成し、また城下には武家屋敷が立ち並び、城下町・雲浜が整備されたのです。

おおむね現在の城内地区が小浜城、雲浜・山手地区と一番町・千種・四谷・大手地区が武家屋敷、関区が足軽長屋、水取地区が田んぼになっています。また南川は現在の船だまりから中央公園、小浜病院付近、小浜二中、市営グラウンド付近を経て現在の南川に至るあたりを流れていました。



3. 小浜の中心部として

明治時代に入ると、明治4年には小浜城内に小浜県庁が置かれましたが、同年12月城内に火災が発生、天守閣を除く城の大部分が焼失し、さらに明治6年には政府から廢城令が出され、天守閣も解体され内堀も埋められ、往時の面影はほとんどなくなりました。そして城跡や武家屋敷跡は宅地となっていきました。



明治時代の西津橋・大手橋付近(左が西津橋北詰、右が大手橋南詰)
「ふるさとの思い出写真集・小浜」より

昭和時代に入って山口嘉七の指揮のもと、南川の大改修が16年の歳月をかけて行われ、南川は現在の流路となりました。

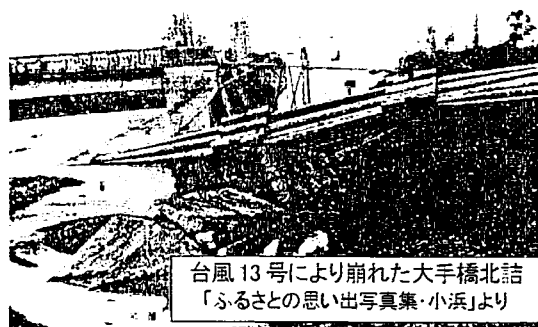
旧南川跡とその周辺の田んぼは、学校、グラウンド、市役所、病院、公園などとして利用されるようになり、公共施設が集中する小浜市の中心としての雲浜地区の骨格ができあがったのです。



4. 水害と治水

北川と南川が貫く雲浜地区は、昔から水害に悩まされてきました。

昭和28年(1953)に襲来した台風13号は小浜で総雨量510mmもの豪雨をもたらし、堤防損壊193箇所、死者・行方不明70人、重・軽傷者252人、家屋全壊232戸、流失・半壊・損傷等約2,500戸、浸水家屋約4,500戸という未曾有の大災害となりました。関区には慰霊碑が建てられ、なくなった方のお名前が刻まれています。



台風13号により崩れた大手橋北詰
「ふるさとの思い出写真集・小浜」より

その後、北川・南川の河川改修が進められ、さらに昭和50年代には雲浜小学校の移転を伴った多田川改修も行われて、水害からまちを守る取組みはかなり進められました。

5. 現在の姿

現在、雲浜地区には18区約2,200世帯、約5,500人が住んでいます。

雲浜地区は小浜市の中心部であるため、他地区と比較して非常に特色ある地域となっています。以下にあげてみましょう。

- (1) 市役所・病院・警察署・消防署・郵便局・文化会館・県立図書館・中央公民館・市民体育館・健康管理センターなど、小浜市内の公共施設の大部分が雲浜地区に集中している。
- (2) 学校も雲浜小学校だけでなく、若狭高校・小浜中学校・小浜第二中学校が集中する。
- (3) 地区内に9個所の都市公園がある。
- (4) 寺は上竹原・徳雲寺だけで、多くの方は地区外の寺の檀家である。
- (5) 神社は広嶺神社と小浜神社の2社で、氏子は複数の区にまたがっており、そのため祭礼も複数の区にまたがって行われる。
- (6) 屋号のない家が大部分である。
- (7) 山がほとんどない。田んぼも少ない。
- (8) 町史・村史がない。

このように、一言で言えば雲浜地区は「市街地」です。山がほとんどなく、田んぼも少ない小浜は、第一次産業に従事する人は多くありません。このことは、たとえばPTA資源回収で軽トラが用意できないとか、奉仕作業で草刈機が集められないなど、雲浜地区ならではのエピソードに端的に現れています。

そしてこのことは、私たち雲浜地区民の生活、特に食生活が、地区外に頼らざるを得ないことを示しています。雲浜地区は消費地であり、「地産池消」はほとんどできないのです。

豊富な地下水は、雲浜地区外からやってきます。北川・南川の中・上流地域で雨水が地下に浸透し、それが長い年月をかけて雲浜地区まで流れてきているのです。また、上水道の水源も北川・南川から採っています。北川・南川という二大河川の流域すべてが、雲浜地区にとってかけがえのない「生命の基盤」なのです。

そのような私たちであるからこそ、たとえ雲浜地区から遠く離れていても、山も川も汚してはいけないのです。こういった考えは、「小浜市食のまちづくり条例」の基本理念でもあります。

第2章 住みよい雲浜地区に

雲浜いきいきまちづくり委員会では、歴史的環境部会、自然環境部会、社会的環境部会に分かれて、まちづくりの方向性について考えてきました。

そして、山も田んぼも少なく、北川・南川上流からの恵みを楽しむ消費地・雲浜に住んでいるからこそ、自然や文化を大切に、きれいで住みよいまちを作ることが大切であるとの結論に至りました。

こういったことを基本理念に、住みよい雲浜地区にするため、以下のようなことを考えました。一見すると「食」とは関係ないようにも見えますが、「きれいで住みよいまちづくり」こそが、雲浜地区にとっての「食のまちづくり」であると考えます。

■ 誇り高い歴史と伝統のあるまち・雲浜

➤ 小浜城を中心とした城下町・雲浜

◇ 小浜城再建は、不況の中で無理をして再建を急ぐ必要はないと考える。

しかし、いずれ財政状況が改善され、また市民の気運も高まったならば、誇りある歴史的建造物として再建し、小浜市のシンボルとして、また市民が歴史に親しみ郷土の誇りを醸成する場として活用することが考えられる。



◇ このことも考え、小浜城を中心とした歴史文化的景観を保全し、これを阻害するような物の構築を避けるよう、特に南川改修や西津橋・大手橋架け替えに際しての最大限の配慮を行政に求める。

◇ 小浜城の歴史紹介等の啓発活動を進める。

◇ 小浜神社清掃などの施設保存に寄与する活用を進める。

➤ 伝統行事の保存と盛り上げ

◇ お城祭りを保存継承するとともに、さらに盛り上げ、発展させていく。

◇ 祇園祭りは氏子衆の意見を尊重し、地区民としても協力していく。

◇ 子どもの地域教育の視点で地蔵盆の伝統を継承していく。



➤ 誇りある郷土の偉人と歴史

◇ 郷土の偉人の業績の伝承と啓発を進める。

◇ 郷土の偉人・歴史を手軽に学べる資料の充実をはかる。

◇ 学校でのふるさと教育への協力



■ 河川の環境保全と有効活用

➤ 景観・環境保全

- ◇ 地区民が自らできることとして、堤防の清掃・植栽を進める。
- ◇ 自然破壊をしない整備を行政に要望する。
- ◇ 今後の河川改修にあわせた河川環境づくりを推進する。
- ◇ ゴミ等の対策として、立て札作りを行う。
- ◇ ゴミ放置取り締まり条例の制定を行政に要望する。
- ◇ 釣り客、上流地区、関係団体へゴミを川に捨てない働きかけを行う。



➤ 河川の活用

- ◇ 河川敷にベンチの作成、設置を検討する。
- ◇ 鳥の営巣できるような環境を整備する。バードウォッチングなどを行う。
- ◇ スポーツ・レクリエーションができるような河川敷の整備を行政に要望する。
- ◇ 河川改修に合わせた施設の設置・整備を推進する。
- ◇ 河川の環境保全、活用についてのモデルゾーンを設置する。

➤ 安全・防災

- ◇ 交通安全のための街頭設置を行政に要望する。
- ◇ 河川改修と合わせて交通安全、防災面の整備を推進する。

■ 身近に活用できる公園をめざして

➤ 自然公園づくり

- ◇ 芝生の植栽をし、幅広い年齢の人が利用できる空間をつくる。
- ◇ 地区民で、屋根付休憩所や間伐材を使ったベンチを作成、設置する。
- ◇ 都市公園の所在地がわかる看板を作成して設置する。

➤ 安全・防犯

- ◇ 遊具等の安全点検を、市・区・利用者が連携をとりながら進める。
- ◇ 街灯が少ない公園については増設を行政に要望する。



➤ 美化

- ◇ モラル向上を訴える看板を設置する。

■ 親しみのある海づくり

➢ 海の活用

- ◇ 海と触れ合う体験学習、体験講座を実施・支援していく。

➢ 海岸・砂浜の活用

- ◇ 施設の必要性の検討を十分に行い、施設設置・整備による自然・地形の変化について勉強する。

➢ 美化

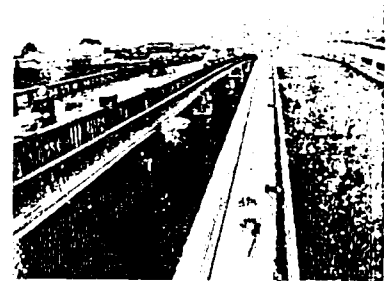
- ◇ モラル向上を訴える看板を設置する。
- ◇ 釣り客、上流・周辺地区、関係団体へゴミを川や海に捨てない働きかけを行う。
- ◇ 環境被害と今後の対策を学ぶ公開講座・学習を行う。



■ 安心して暮らせるまちづくり

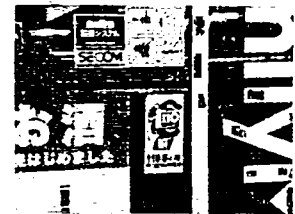
➢ 西津橋・大手橋の整備

- ◇ 過去の災害の教訓を踏まえた河川改修の推進を行政に要望する。
- ◇ 地域特性を生かした西津橋・大手橋の改修を行政に要望する。



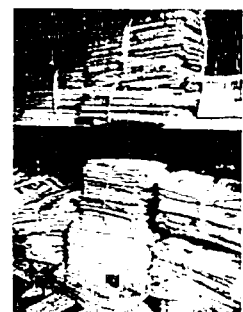
➢ 防犯・防災体制の整備

- ◇ 街灯、防犯灯の整備を行政に要望する。
- ◇ 歩道、横断歩道、カーブミラー当交通安全施設の整備を進めるよう、行政に働きかける。
- ◇ 自主的な防犯組織の設置を進める。
- ◇ 防災学習会を開催し、教訓や避難方法、日頃の備えなどを学ぶ。



➢ 環境美化、ゴミの減量化とリサイクル

- ◇ 堤防、海岸等の不法投棄ゴミの清掃活動を行う。
- ◇ ゴミ減量化、リサイクルなどの講演会を開催する。
- ◇ 空き家などを利用した古紙集積ステーションを設置する。



■ ふるさとを誇りに思うまちづくり

➤ ふるさとを誇りに思う子供たちの育成

- ◇ 地区内の史跡や偉人ゆかりの名所などを結ぶ散策コースを整備する。
- ◇ 子育て相談室を公民館に設置する。
- ◇ 遊びや学習などの機会を積極的に提供する。
- ◇ 雲浜小学校のあり方研究会を設置する。



➤ 生涯学習の充実

- ◇ 自然、歴史、文化等、地域のよさを学ぶ機会を提供する。
- ◇ 「絵のまちするプロジェクト」等、地域を特徴づける取組みを実施する。

■ 男女共同参画社会をめざして

- ◇ 男女共同参画についての学習と意識改革を推進する。
- ◇ 男女共同参画の障害となる習慣、しきたりの改善に努める。
- ◇ 女性の役員、委員への積極的な登用を進める。



■ 健康で思いやりのあるまちづくり

➤ 健康づくりの推進

- ◇ 「歩こう会」等、気軽に運動ができる機会の提供を進める。
- ◇ 公共施設の開放や相互利用を進め、いろいろなスポーツに親しめるようにする。
- ◇ 体力測定を行い、体力への関心を高める。
- ◇ 講習会や健康料理コンテストなどを開催して、食の情報を提供する。



➤ 思いやりのある福祉のまちづくり

- ◇ 介護についての情報交換、悩み事相談ができる場所を設置する。
- ◇ 福祉ボランティア・福祉サークルを育成する。
- ◇ 学校教育での福祉教育の充実に協力する。



雲浜地区いきいきまちづくり計画表

	計画の実施項目	実施目標			実施主体		
		短期	中期	長期	地区	小浜市	福井県・国
誇り 伝統のあるまち・雲浜	[小浜城を中心とした城下町・雲浜]						
	小浜城再建			○		○	
	小浜城を中心とした歴史文化的景観の保全	○			○	○	○
	小浜城の歴史紹介等の啓発活動	○			○	○	
	小浜神社清掃など史跡保存に寄与する活動	○			○	○	
	[伝統行事の保存と盛り上げ]						
	お城祭りの保存と盛り上げ	○			○		
	祇園祭の保存と協力	○			○		
	子どもの地域教育の視点での地蔵盆の伝統継承	○			○		
	[誇りある郷土の偉人と歴史]						
	郷土の偉人の業績の伝承と啓発	○			○	○	
	郷土の偉人・歴史を手軽に学べる資料の充実	○			○	○	
学校でのふるさと教育への協力	○			○	○		
河川 の環境保全と有効活用	[景観・環境保全]						
	堤防の清掃・植栽	○			○		
	自然破壊をしない整備					○	○
	河川改修に合わせた河川環境づくり		○		○	○	○
	立て札作り(ゴミ等対策)	○			○	○	○
	ゴミ放置取締り条例制定	○			○	○	○
	ゴミを川に捨てない働きかけ(釣客・上流地区・関係団体)				○	○	○
	[河川の活用]						
	ベンチの作成、設置	○			○		
	鳥が営巣できる環境の整備、バードウォッチング	○			○		
	スポーツ、レクリエーションができる河川敷の整備			○		○	○
	河川改修に合わせた施設の設置、整備		○			○	○
河川の環境保全、活用についてのモデルゾーン設置				○	○	○	
[安全・防災]							
交通安全等のための街灯設置	○				○	○	
河川改修に合わせた交通安全、防犯面の整備		○			○	○	
身近に 活用できる公園を めざして	[自然公園づくり]						
	芝生の植栽		○		○	○	
	屋根付休憩所や間伐材を使用したベンチの作成、設置	○			○	○	
	[安全・防災]						
	遊具等の安全点検	○			○		
	街灯の設置、増設	○				○	
	[美化]						
看板設置	○			○	○		
親しみ のある海づく	[海の活用]						
	海と触れ合う体験学習、体験講座				○		
	[海岸、砂浜の整備]						
	施設の必要性の検討、自然・地形の変化の学習			○	○		
	[美化]						
	看板設置	○			○	○	○
	ゴミを川に捨てない働きかけ(釣客・上流周辺地区・関係団体)				○	○	○
公開講座、学習の実施、環境被害と今後の対策の学習				○			
安心して 暮らせるまちづく	[大手橋・西津橋の整備]						
	過去の災害の教訓を踏まえた河川改修の推進		○			○	○
	地域特性を生かした西津橋・大手橋の改修		○			○	○
	NTT交差点～水取大橋～西津公民館の区間を国道162号に代替			○		○	○
	[防犯・防災体制の整備]						
	街灯、防犯灯の整備	○	○			○	○
	歩道、横断歩道、カーブミラー等交通安全施設の整備	○	○			○	○
	自主的な防災組織の設置				○	○	
	防災学習会の開催	○			○	○	
	[環境美化、ゴミの減量化とリサイクル]						
	堤防、海岸等の不法投棄ゴミの清掃	○			○		
	南川、北川堤防の美化運動	○			○		
ゴミの減量、リサイクル等に関する講演会の開催	○			○	○		
空家を利用した古紙集積ステーションの設置				○	○		
ふるさとを 誇りに思	[ふるさとを誇りに思う子供たちの育成]						
	試着コースの整備	○			○	○	
	子育て相談室の設置	○			○	○	
	遊びや学習などの機会の提供	○			○	○	
	雲浜小学校のあり方研究会の設置	○			○		
	[生涯学習の充実]						
	自然、歴史、文化等、地域の良さを学ぶ機会の提供	○			○		
「絵のまちにするプロジェクト」等、地域を特徴づける取組みの実施	○			○			
男女 共同	[男女共同参画社会を目指して]						
	男女共同参画についての学習と意識改革の推進	○			○	○	
	男女共同参画の障害となる習慣、しきたりの改善	○			○	○	
	女性の役員、委員への積極的な登用	○			○	○	
健康で 思いやり のあるま	[健康づくりの推進]						
	「歩こう会」等、気軽に運動ができる機会の提供	○			○		
	公共施設や各区の施設の開放や相互利用の実施	○			○	○	
	体力測定の実施	○			○		
	講習会や料理コンテスト等、専門家による食情報の提供	○			○	○	
	[思いやりのある福祉のまちづくり]						
	介護についての情報交換、悩み事相談ができる場所の設置	○			○	○	
	福祉ボランティアの育成	○			○	○	
福祉サークルの育成	○			○	○		
学校教育での福祉教育の充実	○			○	○		

第3章 まちづくり提案

まちづくりのテーマ

誇り高き歴史と伝統のあるまち・雲浜

●小浜城 ●お城祭り ●祇園祭り ●伝統行事 ●郷土の偉人と歴史

小浜城

■ 現状

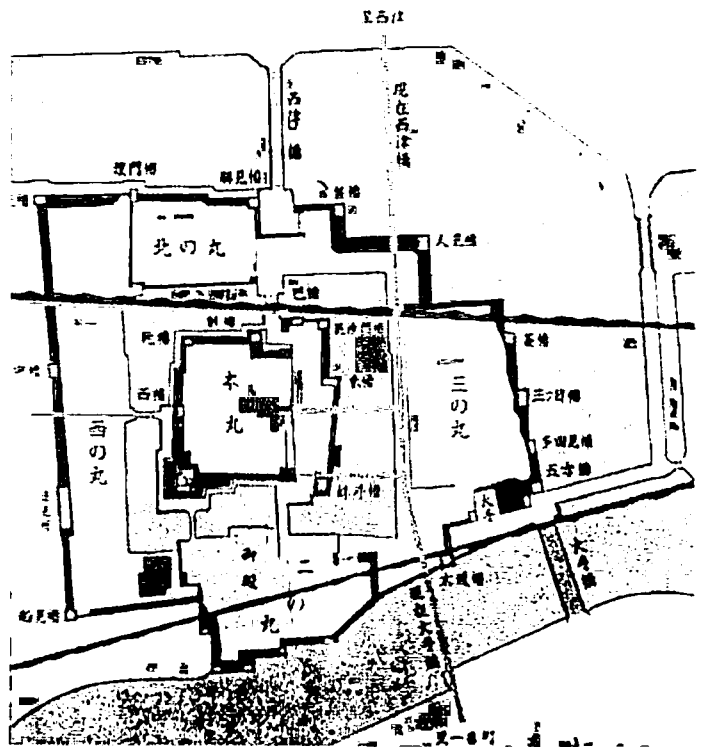
現在、小浜城跡は本丸部分（東側石垣を除く）だけが残存しており、小浜神社境内となっています。

南側の二の丸は南川の改修により取り壊され、一部が城内区宅地となっています。

西側の西の丸は宅地となっています。

北側の北の丸は多田川および堤防になっています。

東側の三の丸は雲浜保育園や裁判所となっています。ここに雲浜小学校があったころ、グラウンドと裁判所の間に石垣が残っていたのをご記憶の方も多いでしょう。



小浜城は、近世城郭としては北陸随一の規模であり、また雲浜地区のみならず、小浜市のシンボリック的存在でもあります。

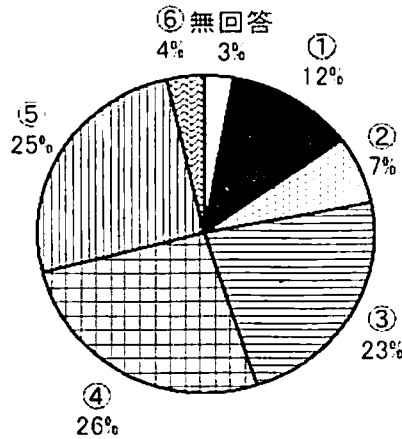
■ アンケート結果

小浜城再建については、市民への建設費負担への懸念、「城にこだわらなくてもいいのでは」といった意見が多数でした。

また、「お金をかけて建てる必要はない」という意見も多くありました。

その一方で、周辺整備なども含めた積極的な意見もありました。

小浜神社内の史跡等については、整備保存を望む意見が大半で、中でも、地区民も史跡を勉強して整備保存しようという積極的意見が多くありました。



- ① 周辺整備なども含め本丸全体の再建
- ② 現在の石垣に天守閣のみ再建
- ③ 市民に建設費負担をかけず天守閣のみ再建
- ④ 城にこだわらず、資料館、歴史紹介施設などの建築
- ⑤ お金をかけて建てる必要はない
- ⑥ その他

■ いきいきまちづくりのために

不況の中、地区民・市民も積極的な再建には慎重な意見が多いことから、ことさらに再建を急ぐ必要はないと考えます。

しかし、いずれ財政事情が改善され、また市民の気運が高まったならば、誇りある歴史的建造物として再建し、小浜市のシンボルとして、また市民が歴史に親しむ場、郷土の誇りを醸成する場として活用することが考えられます。

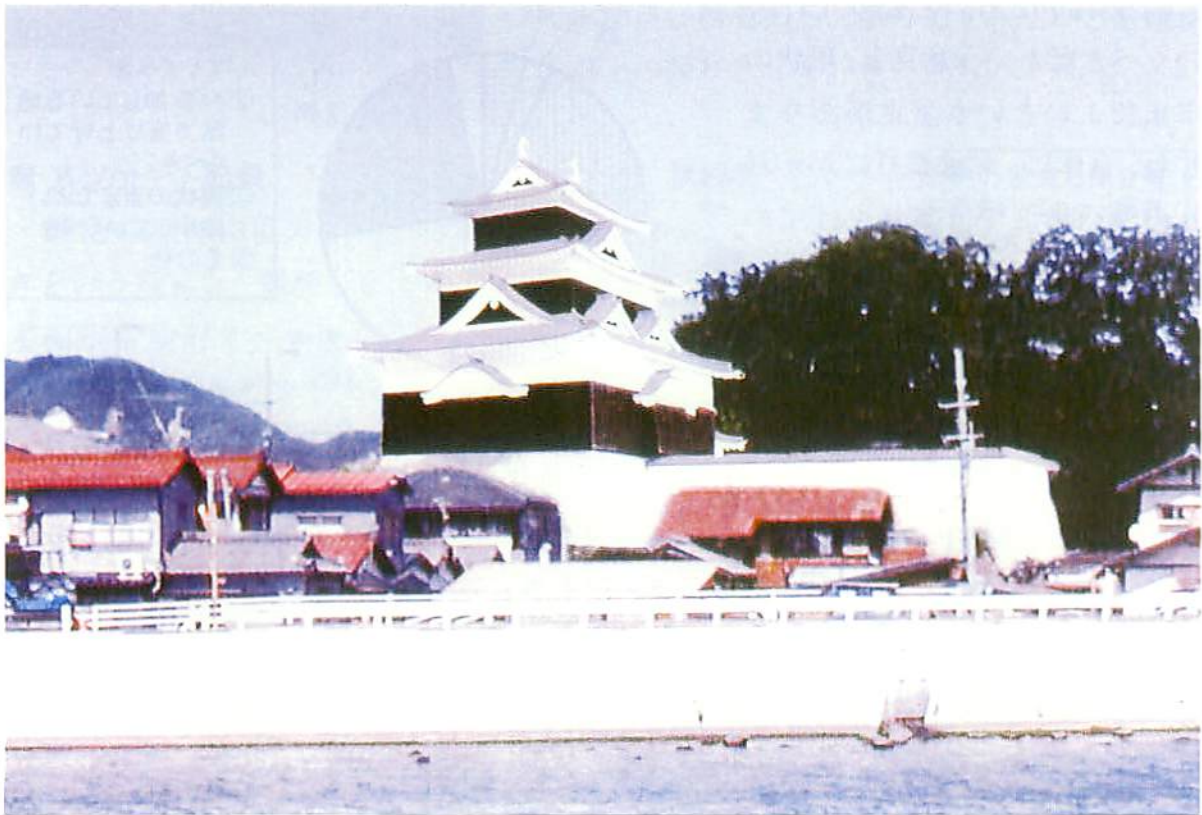
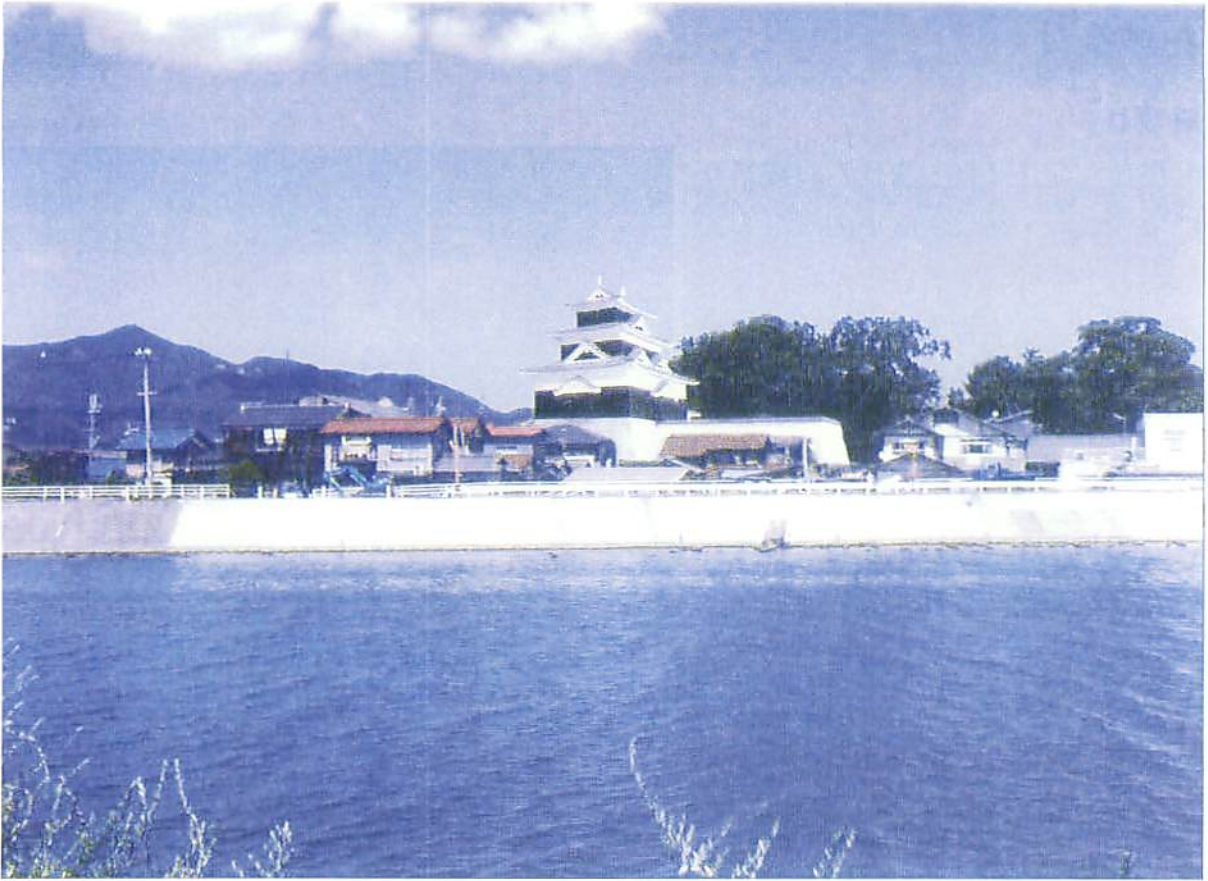
そのために、今は次のようなことに取り組むべきではないかと考えます。

➤ 将来、小浜城が再建された場合に、これを中心とした歴史文化的景観を阻害するような物の構築をできるだけ避けるよう呼びかける。

特に架け替え工事が計画されている西津橋・大手橋および国道 162 号の改修や、南川改修については、歴史文化的景観に対する最大限の配慮を行政に要請する。

➤ 地区民・市民の小浜城への関心を高めるべく、文章や絵・模型・コンピューターグラフィックなどを活用し、またリーフレットやインターネットなど種々のメディアを通じて、小浜城の歴史を紹介していく。

➤ 小浜神社の清掃活動など、小浜城石垣などの保全に寄与する活動を積極的に行う。



小浜城再建イメージ

お城祭り

■ 現状

現在、5月2日・3日のお城祭りには、城内・雲浜・山手地区が大太鼓を、一番町地区が獅子舞を、また水取地区が子供神輿を、それぞれ演技しています。

近年、出し物が増えたことを機に、3日には小浜神社で「合同宮入」を行っており、大太鼓同士の競り合い等、盛り上がりを見せています。

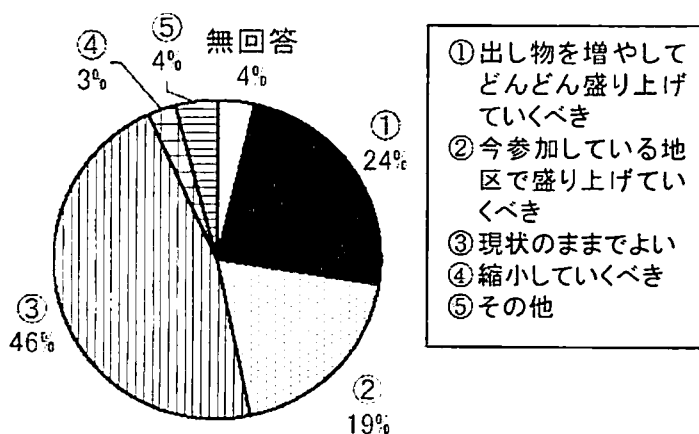


少子高齢化の確実な進行は今後、祭りのあり方にも大きな影響を及ぼしてくると思われませんが、祭りを通じた地域住民の世代を超えた触れ合い・連携は、現代社会において貴重な機会であるといえましょう。

■ アンケート結果

お城祭りをもっと盛り上げていくべきだという意見と、現状のままでよいという意見がありました。全体に、お城祭りにかかわりの深い地区では盛り上げていくという気運が高いようです。

また、祭りのあり方を見直そうという意見も多くみられました。



■ いきいきまちづくりのために

- 現在の盛り上がりを維持し、さらに発展させていくため、現在祭りにかかわっている地区・人たちが、さらに充実感を得られ、仲間を増やしていけるような取組み（PR、啓発活動など）を展開する。
- 神事として伝統芸能を守り伝承していく祭り、イベント色の強い祭りなど、いろいろな形態がある中で、伝統と広範な地区民参加の両立を柔軟に考え、実行していく場を作る。
- 貴重な地域教育の場として、子どもたちの積極的な参加を促していくとともに、世代間交流、伝統芸能の継承を進める。

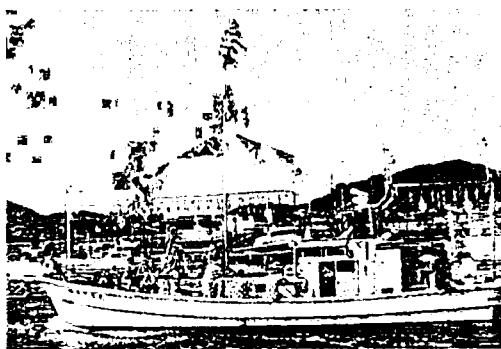
祇園祭り

■ 現状

現在、祇園祭りは7月中旬の土曜・日曜に、上竹原・下竹原の氏子衆を中心に行われています。

広嶺神社を出た神輿は上竹原を経て、一番町の船だまりまで陸路運ばれます。また、子ども神輿も出て、本神輿に同行します。

神輿は船だまりから船で西津・下竹原の御旅所まで運ばれ、一晩過ごします。この日の下竹原は夜店も出ます。

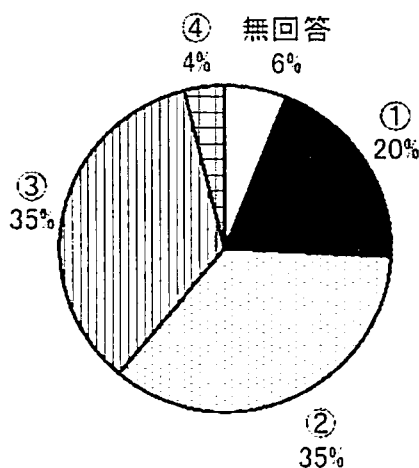


翌日、今度は下竹原の氏子衆が神輿を船で運び、そのまま陸揚げして広嶺神社に宮入します。そして、上竹原の氏子衆とともに鎌取神事が執り行われます。

この祭礼は、江戸時代における若狭地方最大の祭りであり、お城祭りや放生祭りの出し物のルーツでもある、歴史あるお祭りです。ぜひとも継承し、郷土の誇りとしていきたいものです。

■ アンケート結果

祭礼の維持に協力すべきという意見と、無理をせず縮小も検討すべきという意見が多くありました。また、可能な範囲で盛り上げていくべきだという意見もありました。



- ① 氏子の意見も聞き可能であればもっと祭礼規模を大きく盛り上げていくべき
- ② 人的支援などの形で祭礼維持に協力すべき
- ③ 無理をせず多少の縮小も検討すべき
- ④ その他

■ いきいきまちづくりのために

➤ 若狭地方最大の祭りであった祇園祭だが、今は氏子衆が継承している。

今後のあり方は氏子衆の考えにゆだねることを基本とすべきだが、歴史ある伝統祭礼として、地区民みんなで見守っていき、何かできることがあれば、地区民として積極的に支援・協力していく。

伝統行事

■ 現状

お祭りのほかに、雲浜地区で傳承されている伝統行事に地蔵盆があります。

地蔵盆は、子供たちの無病息災を願い毎年8月23日に市内のあちこちで繰り広げられている行事です。子供が主役の祭りで地蔵さんの化粧直しを行い地蔵さんをまつり、終日元気に旗取りや「まいってんの、まいってんの」と道行く人に賽銭を上げてもらい、子供たちにとって残り少なくなった夏休みの最後の楽しい行事となっています。

■ アンケート結果

「地蔵盆自体が金集め目的になっており、また商店の入り口で執拗に賽銭を集めているのでよくない」という意見が多くみられました。また「若狭特有の伝統行事をきちんと保存傳承していくべき」との意見がありました。

■ いきいきまちづくりのために

- 地域の教育力が低下しているといわれる昨今、大人の側の都合や効率性ではなく、「子どもたちのために何がよいのか」という視点で、地蔵盆の伝統を繼承していく。

郷土の偉人と歴史

■ アンケート結果

郷土の偉人については、顕彰祭や資料整理、啓発など積極的に取り組むべきだという意見が38%、現状のままでよいとする意見が51%でした。

また、歴史資料については、資料整理と意識向上への取り組みを行うべきとする意見と、特にその必要はないとする意見がそれぞれ41%ずつありました。

■ いきいきまちづくりのために

- 顕彰祭などに積極的に協力し、郷土の偉人の業績を地区民に伝え、啓発する。
- 郷土の偉人や歴史資料を、地区民、特に子どもが手軽に学べるよう、平易な文章での資料整理や、インターネットを含む提供手段の充実をはかる。
- 学校におけるふるさと学習などの場に積極的に協力して偉人や歴史を子どもたちに教え、ふるさと・雲浜への誇りを醸成する。

河川環境保全と有効活用

● 景観・環境保全 ● 河川の活用 ● 安全・防災

景観・環境保全

■ 現状

雲浜地区は、北川、南川、多田川、江古川の四つの川が流れて込む、その河口に広がる古くから川との関わりの深い地区であります。南川では、春のイサザ採り漁や学生のボート練習など四季折々の風景があり、北川辺りでは、水取大橋（仮称）建設など、他の



地区にはない風景が雲浜地区にあります。また、河川環境は北川の水質が全国3位に選ばれるほどきれいな水を有しており、大変恵まれた河川環境であります。

一方で、私たち雲浜地区民が日頃、川辺に近寄ることもなく、河川について考えることもなかったことも事実です。そのためか堤防に雑草が生い茂り、ゴミが散乱するなど河川の景観を汚している状況が見受けられます。

そこで、私たちと関わりの深い河川を考え、特色のある景観づくりや環境保全に努める必要があります。

また、今後予定されている河川改修に合わせて、雲浜地区民、小浜市民が身近に親しむことができる河川環境にする必要があります。

■ アンケート結果

【景観】

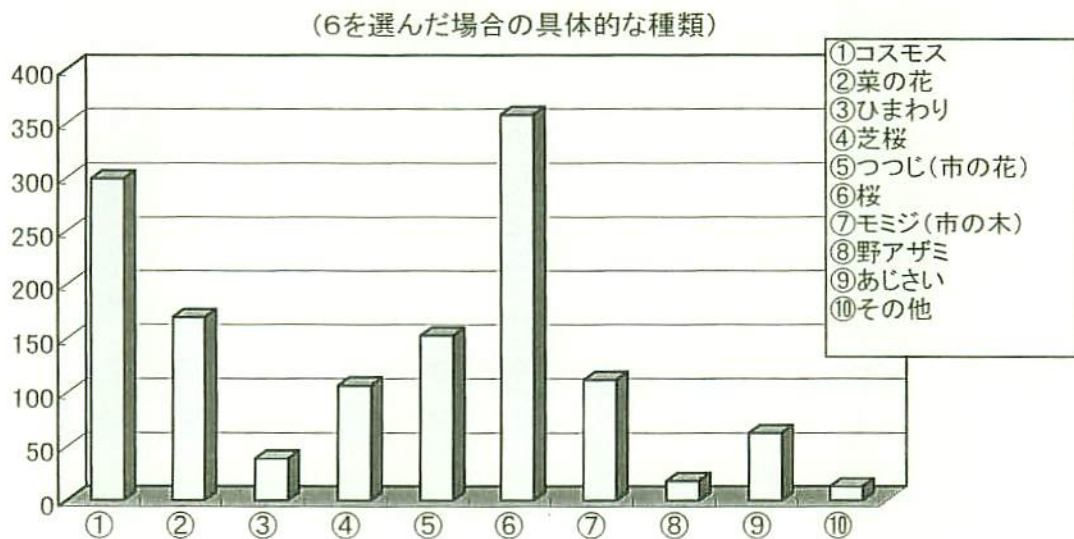
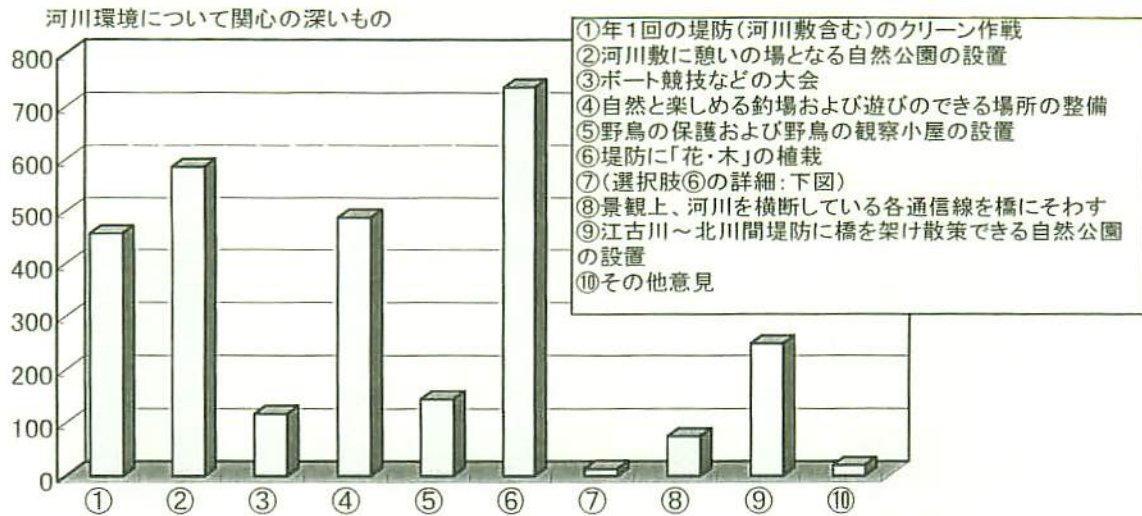
- 堤防や河川敷に花・木の植栽（回答最多）

【美化】

- クリーンデーの回数を増やす
- 堤防のゴミ、犬の糞対策、ゴミを捨てないようなモラルの呼びかけ
- ポイ捨て禁止の立て札やゴミ箱の設置、ゴミ放置の取締り（条例等）

【環境保全】

- 河川の自然はそのまま、季節を感じさせてくれる風景を大切に



■ いきいきまちづくりのために

- まず地区民が自ら出来ることとして、堤防のゴミ拾い、草刈りを行うと同時に花の植栽を行う。既に15年8月24日に北川左岸堤の草刈りとマリーゴールド、サルビアの植栽を実施した。
- 自然破壊をしない整備を行政に要望する。
- 今後の河川改修に合わせた河川環境づくりを推進する。
- ゴミ等の対策として、立て札作りを行う。
- ゴミ放置の取締りを行うため条例の制定を行政に要望する。
- 釣り客、上流地区、関係団体へもゴミを川に捨てない働きかけを行う。



河川の活用

■ 現状

川とのつながりの深い雲浜地区にも関わらず、ほとんどこの川を活用されていないのが現状です。しかし、現在建設中の水取大橋（仮称）や今後、大手橋、西津橋の架け替え、河川改修を目指していくとともに、河川の有効活用も考えていく必要があります。

■ アンケート結果

【河川の活用】

- スポーツ（ボート競技、イカダレースなど）、レクリエーション（バードウォッチング、野の花散策など）の実施

【施設・設備の整備】

- 河川敷に屋台やベンチ・釣り場の設置
- スポーツ施設やレクリエーション施設の設置
- 自然公園、散歩道、ジョギングコース等風景にマッチした施設の設置、整備

■ いきいきまちづくりのために

- 地区民でベンチを作成し、河川敷への設置を検討する。ベンチは環境や景観に配慮した間伐材を使用する。
- 鳥が営巣できるような環境整備を進める。バードウォッチングなど行う。
- 河川敷などでスポーツやレクリエーションができるような施設の設置や整備を行政に要望する。
- 河川改修と合わせた施設の設置、整備を推進する。
- 河川の環境保全、活用についてモデル的なゾーンを設置する。

安全・防災

■ 現状

南川の堤防辺りでは、交通量が非常に多く、歩行者等の安全が確保されていません。また、夜間は街灯がなく交通安全の面からも非常に危険であります。交通安全や風水害時のことを考えた河川整備を行う必要があります。

■ アンケート結果

- 災害時、交通安全などを考えた堤防の整備および街灯の設置
- 自動車通行止めの設定（ジョギング・マラソン・一般散歩者の安全確保のため）

■ いきいきまちづくりのために

- 交通安全等のための街灯の設置を行政に要望する。
- 河川改修と合わせて交通安全、防犯面についての整備を推進する。

身近に活用できる公園をめざして

●自然公園・憩いの場づくり ●安全・防犯 ●美化

自然公園づくり

■ 現状

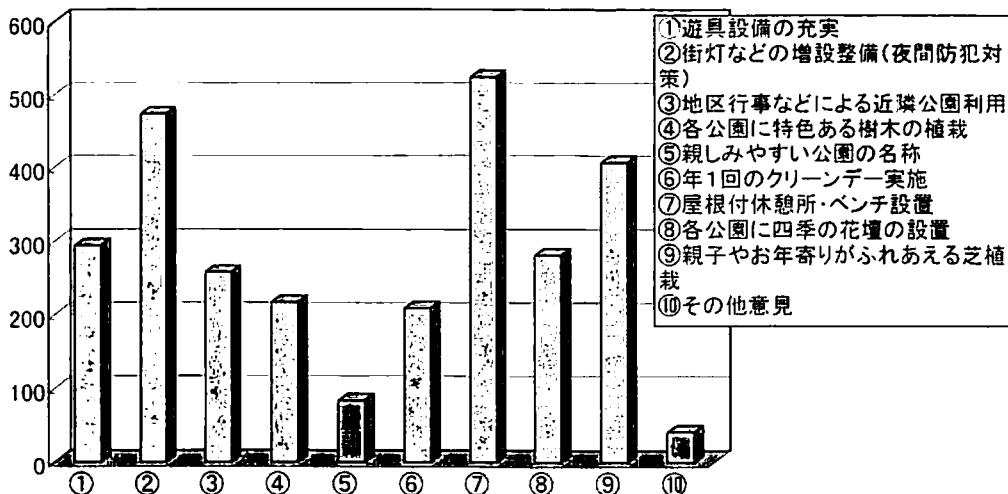
小浜市には都市公園が21箇所ありますが、そのうち9箇所が雲浜地区に集中しています。しかし、この公園を地元地区などが有効活用しているところもあれば、ほとんど活用していない公園もあります。

今後、地区民に利用しやすく、利用される公園づくりをする必要がありますが、そのために、まず、恵まれた自然環境を活かした自然公園・憩いの場づくりに努める必要があると考えます。



■ アンケート結果

- 野鳥等が来るように雲浜全体を自然公園および都市に
- 公園の空き地に緑化を進め、また、各公園に特色をもたせる（(例) 特色ある草花・木を植え公園名に）
- レクリエーション・スポーツ施設、広場の整備
- 芝生広場の整備や植栽、植樹
- 屋根付き休憩所・ベンチ設置



■ いきいきまちづくりのために

- 親子やお年寄りがふれあえる芝生の植栽をし、幅広い年齢層の人が利用できる空間をつくる。
- 身近に休憩できるように、地区民で屋根付きの休憩所や間伐材を使ったベンチを作成し、設置する。
- 雲浜地区にある都市公園の所在地のわかる看板を作成し知らせる。

安全・防犯

■ 現状

公園内には、遊具等が設置してあるが、設置年数がかなり経っているところもあり、老朽化が進んでいるところも見受けられます。全国的に遊具による事故例も示されているように、公園内の遊具等の定期的な点検が求められており、子供など安全確保に努める必要があります。



また、公園には街灯が少なく、防犯対策にも努める必要があります。

■ アンケート結果

- 遊具の定期的安全点検
- 街灯などの増設整備（夜間防犯対策）

■ いきいきまちづくりのために

- 市、各公園所在地区、利用者が連携をとりながら、遊具等の安全点検に努める。
- 街灯などが少ない公園については、増設を行政に要望し、防犯に努める。

美化

■ 現状

公園には、必ずといっていいほどゴミが落ちています。また、犬の糞なども落ちており、その環境が汚されているところか、地区住民が身近に利用しにくいところになっています。そこで、ゴミ問題を中心に公園の美化に取り組む必要があります。

■ アンケート結果

- クリーンデーの年間回数を増やす
- 落書き防止やトイレを明るく、清潔にするため、定期的に清掃、また除草、植木の手入れも
- 野良猫、鳥対策および、犬を放さず糞処理の徹底も



地元住民による公園清掃

■ いきいきまちづくりのために

- 「ゴミはゴミ箱へ」「犬を公園内に放さない」といった看板設置し、利用者のモラル向上に努める。

親しみのある海づくり

●海の利用 ●海岸、砂浜の整備 ●美化

海の利用

■ 現状

雲浜地区は歴史的に見ても海とのつながりは深く、また、現在もこの恵まれた環境を有しています。しかし海に接している地区でありながら、現在、海水浴、海（岸）と親しむ砂浜がなく、海と直接接する場所や機会がありません。

そこで、今回まちづくりを進めるにあたり、海とどのように接し、活用していくかを考える必要があります。 たくましく泳ぐ雲浜の児童達



■ アンケート結果

- ハマグリ（ハマグリ）の養殖や地引網の実施
- 水泳教室、海を活かした、水上祭り（ボート競走など）

■ いきいきまちづくりのために

- 海と触れ合う体験学習、体験講座を行う。また支援していく。

（例）地引網などを行い、海に住む生物の学習や海と遊ぶ楽しさを知る。またそのことによって、海のすばらしさを知る。

海岸、砂浜の整備

■ 現状

二十数年前、雲浜小学校や小浜中学校あたりには、身近に海と遊ぶことができた広い砂浜がありましたが、現在は全くその砂浜もなくなっています。今、かつて雲浜地区に存在したような砂浜や海岸の整備を求める声もあります。一方、反対に雲浜地区に不必要との声もあります。

よって海岸、砂浜の整備ということについて、十分に検討をしていく必要があります。

■ アンケート結果

- 海上魚釣り場、ミニ水族館の設置および海岸遊歩道、デートスポットの整備
- 現状の砂浜で憩いの場の確保や整備
- 海岸施設、海水浴場は、雲浜では無理してつくる必要なし

■ いきいきまちづくりのために

- 海岸、砂浜など施設の必要性について、十分に検討を行う。また、施設の設置や整備による自然や地形の変化の勉強を行う。



砂浜を利用したPTAレクリエーション行事

美化

■ 現状

浜辺付近やテトラポットには、波に打ち寄せたれたゴミや釣り客の残していったゴミが散乱しています。特に雲浜小学校裏や小浜中学校裏で見受けられました。常に海をきれいにし、海の環境も守っていくためにも、雲浜地区だけでなく、周辺地区、関係団体など一体となってゴミ対策を行い、親しみのある海づくりを行う必要があります。

■ アンケート結果

- クリーンデーの回数を増やす
- 海を汚さないようなモラル向上の呼びかけ、ゴミに関する注意看板の設置

■ いきいきまちづくりのために

- 「海を汚さない」「ゴミを海に捨てない」といった注意看板の設置し、釣り客などに呼びかける
- 釣り客、上流・周辺地区、関係団体へもゴミを川、海に捨てない働きかけを行う。
- 海が汚れている現状をふまえ、公開講座・学習を行い、環境被害と今後の対策を学ぶ。

まちづくりのテーマ

安心して暮らせるまちづくり

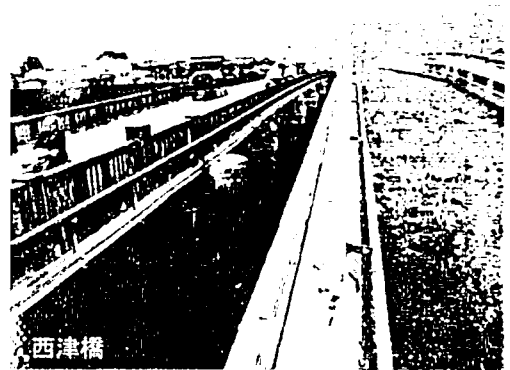
●大手橋・西津橋 ●防犯・防災 ●環境美化・ゴミ問題

大手橋、西津橋の整備

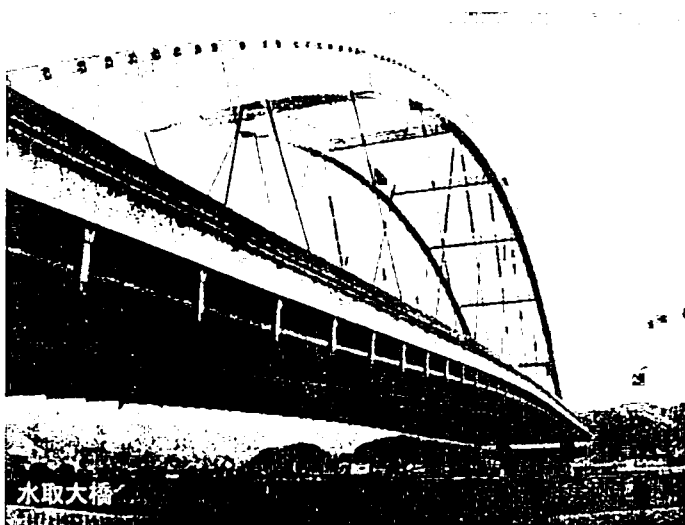
■ 現状

大手橋、西津橋は、大型車が通ると揺れるなど老朽化が進んでおり、歩道橋は傾斜が急で通行に大変不便です。また、車道の幅が6mしかなく、朝夕の渋滞を招いています。

大手橋、西津橋の早期改修が必要なことはいうまでもありませんが、あわせて、早期に南川・北川の河川改修を進めることが必要です。両橋の改修、河川改修に際しては、昭和28年の台風13号の教訓を踏まえ、二度とあのような被害を蒙らないよう慎重に対処するよう関係官庁に要望していく必要があります。



■ 早期架け替えを目指して

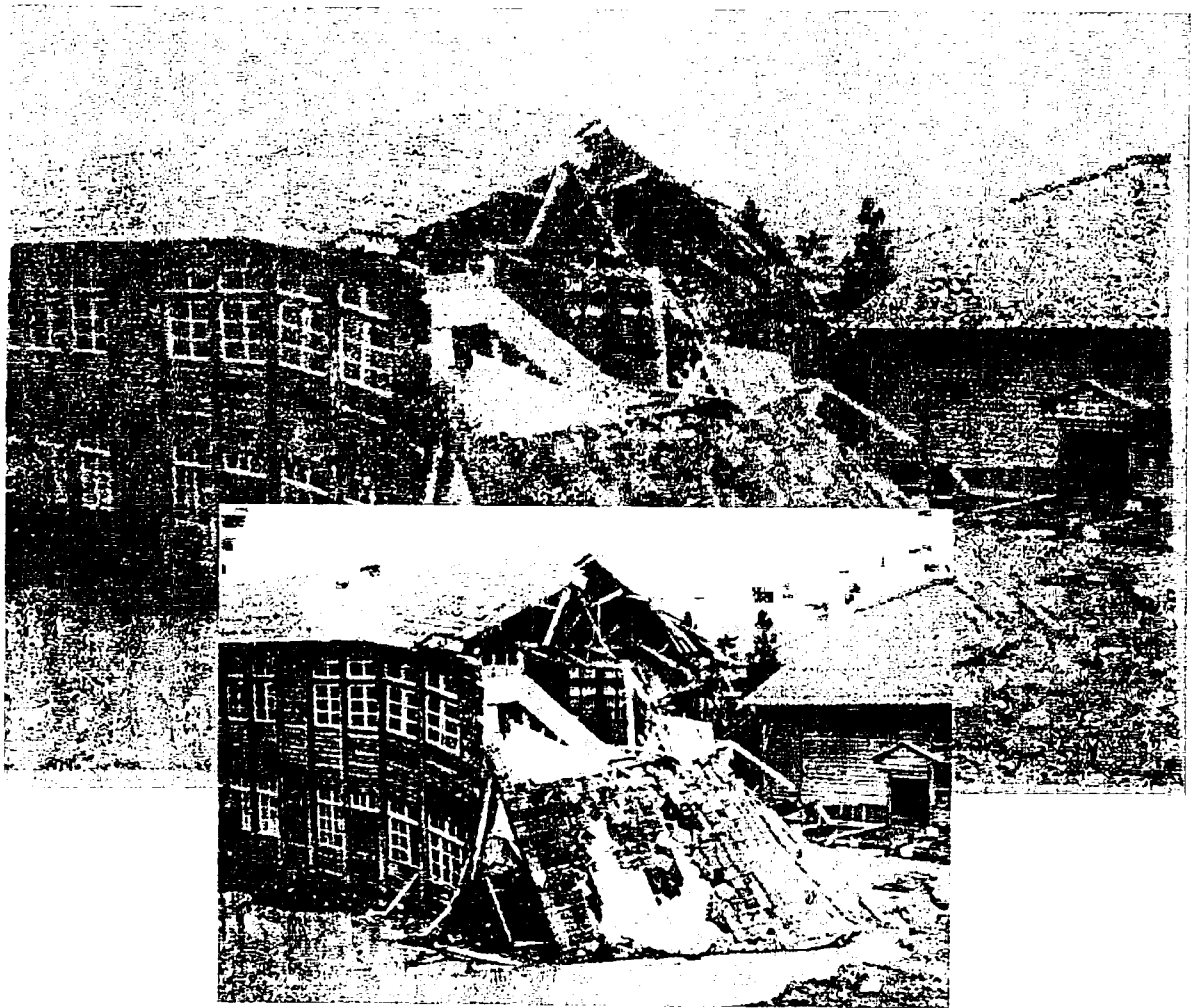


平成10年、小浜、雲浜、西津、内外海の区長会を中心に「国道162号大手橋・西津橋整備促進期成同盟会」が結成され、早期架け替えを陳情してきました。

平成18年度の水取大橋完成に引き続いての着工を目指し、平成16年度中には、行政主体による同盟会が発足する予定です。

■ いきいきまちづくりのために

- 過去の災害の教訓を踏まえ、河川改修を積極的に進める。
- 西津橋・大手橋の整備に際しては、景観に配慮し、地域の特性をいかしたものにしよう要望する。



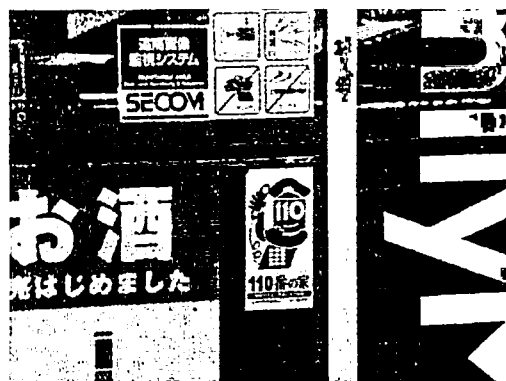
台風 13 号で被害を受けた雲浜小学校（写真提供：小浜市）

防犯・防災体制の整備

■ 現状

住民の連帯意識が弱まるなか、犯罪の低年齢化、凶悪化が進んでいます。特に、子供たちが被害を受ける事件が増えており、アンケート結果でも、犯罪防止などのために街路灯、防犯灯の増設を望む意見が多く寄せられました。

また、小浜市では、地震や集中豪雨に備え、災害に強いまちづくりを進めるため、各地区に自主的な防災組織をつくることを呼びかけています。



■ アンケート結果

➢ 安全・防犯施設について（自由意見）

- ・ 全体的に街灯が少なく通行に不便、また無用心なので、増設を望む。（特に、南川町、水取等区域の広い新興住宅地に要望が多い）
- ・ 大手橋、西津橋が、幅が狭く歩道橋が高いので、改善を望む。
- ・ カーブミラーの設置、点検を望む。
- ・ 全体的に歩道が狭く凹凸があり、通行に不便なので改善を望む。
- ・ 通行量が多く横断に危険な場所に、横断歩道や信号の設置を望む。（特に、すし辰前、宮川薬局前等国道 162 号を横断する場所）
- ・ 違法駐車、信号無視、暴走車などで迷惑している

➢ 指定避難場所を知っていますか

◇ 知らない 57%

➢ 自主的な防災組織について

◇ 必要だが参加できない 63%

- ・ 必要であり、若い人に進んで参加してほしい。
- ・ あれば良いと思うが、人の出入りが多い地区では大々的なものは難しい。
- ・ 形式的なものでなく、住民意識の向上につながるような講演会等を開催してほしい。
- ・ 参加したいが、年齢的に無理。



■ いきいきまちづくりのために

災害から生命と財産を守り、安心して暮らせる環境を確保することは、まちづくりの基本です。国や自治体に積極的な取組みを求めるとともに、突然襲う災害に備え地域ぐるみの連携を進めるため、わたしたち住民も自主的な組織づくりなどの取組みをはじめする必要があります。

➤ 防災学習会の開催

テーマ：台風 13 号の教訓、災害の前兆、避難場所、避難方法、日頃の備えなど



環境美化、ゴミの減量化とリサイクル

■ 現状

地球温暖化による異常気象、大気汚染など、遠い将来のこととされていた環境問題が現実の問題となってきました。環境問題に対しては、国や自治体の対策だけでなく、住民レベルの取組みが重要です。

特に、ゴミ問題に関しては、わたしたちの毎日の行動がカギを握っています。ゴミのル



ールを守ること、リサイクルを進めることなどが、自分達の生活環境を守ることにつながります。

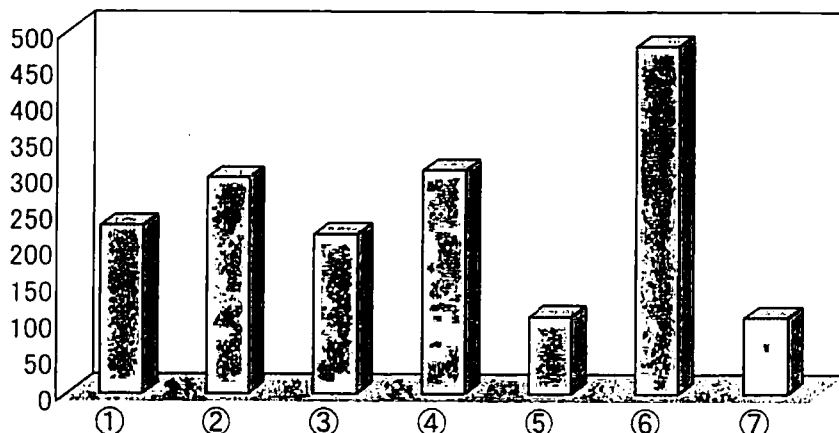
アンケートの結果でも、不法投棄、分別のルール違反などゴミ問題に対する関心の高さがうかがえ、環境美化のためにもゴミのポイ捨てが最大の問題となっています。

■ アンケート結果

- まちの美しさをこわしているもの
 - ◇ ポイ捨てゴミ、空き缶
- ごみの出し方などについて感じるこ
 - ◇ 不法投棄、ポイ捨てを何とかするべき
 - ◇ ごみのルール違反が多い



問17: 地域内でまちの良さ、美しさをこわしているもの

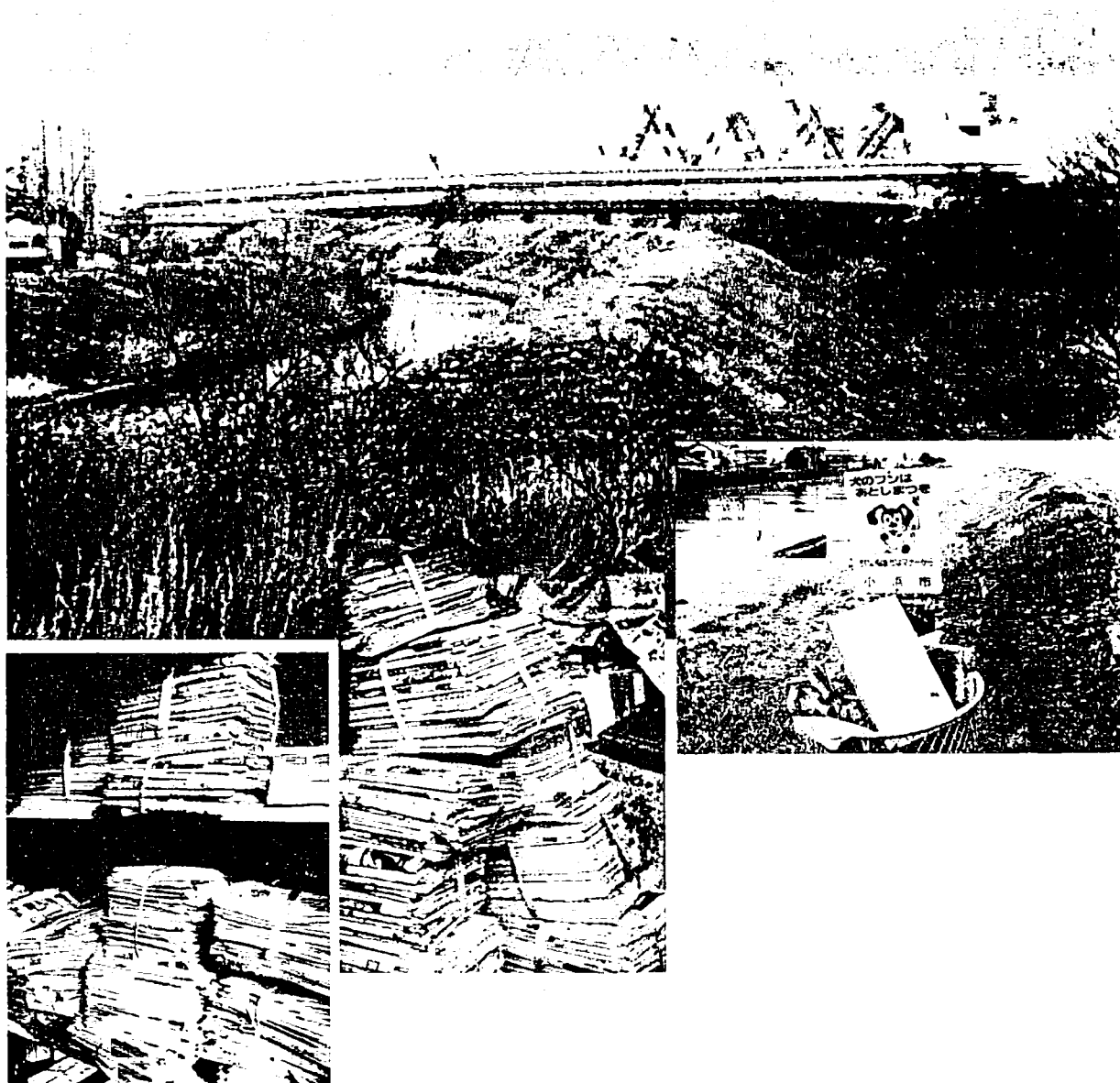


- ① 看板・ポスター
- ② 海岸、川、水路など
- ③ 電線や電柱
- ④ 放置自転車
- ⑤ 公園の樹木など
- ⑥ ゴミ置場の周辺
- ⑦ その他

■ いきいきまちづくりのために

わたしたちの環境を守るためには、リサイクルをすすめる補助制度の創設、不法投棄に対する罰則の制度化など、より踏み込んだ対策が必要です。こうした行政の取組みを求めるとともに、住民自身によるボランティア活動、リサイクルへの取組みなどが必要です。

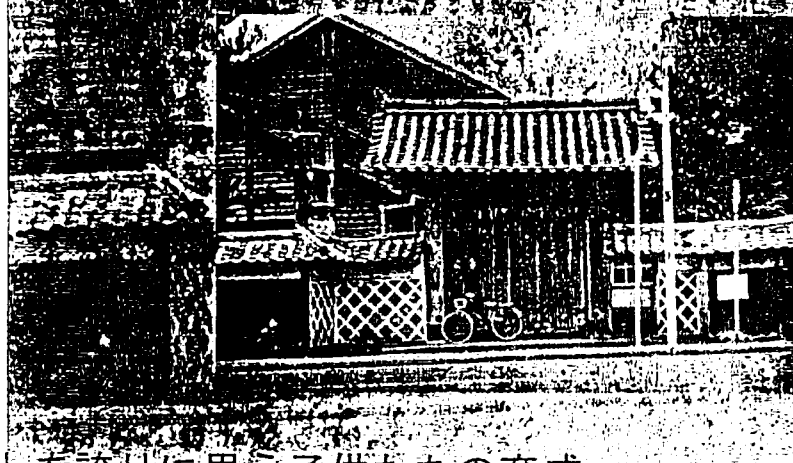
- ごみの不法投棄が目立つ堤防、海岸などの清掃活動
- ごみ減量化、リサイクルなどの講演会の開催
- 空家などを利用した古紙集積ステーションの設置



まちづくりのテーマ

ふるさとを誇りに思うまちづくり

- 子供たちの育成
- 生涯学習の充実



ふるさとを誇りに思う子供たちの育成

順造門

■ 現状

学校5日制をはじめ、これまで以上に学校、家庭、地域が協力して、社会体験や自然体験などの機会を提供することが求められています。

現在、市内の小中学校では、ふるさとを誇りに思う「ふるさと教育」を行っていますが、地域においても積極的に子供たちにかかわっていく必要があります。

■ アンケート結果

- 子供の育成に何が必要ですか
 - ◇ 公園など子供が安心して遊べる場所
 - ◇ 子供会活動の充実
 - ◇ 親子で参加できる行事
- 子供たちに学んでほしいもの
 - ◇ 歴史、文化、自然など郷土の良さ
 - ◇ 公共のマナー、思いやりなどの道徳



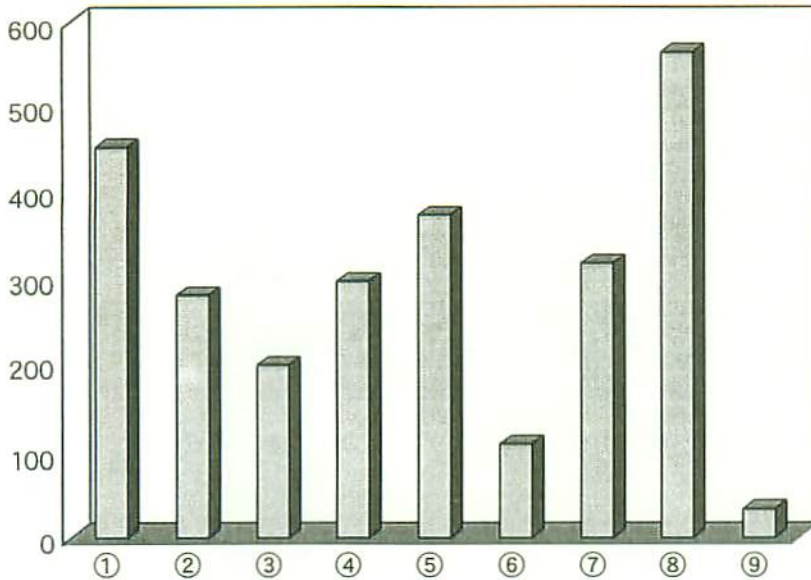
しめ縄づくりで交流

■ 地区民の問題意識

アンケートにはいろいろな意見が寄せられましたが、地域ぐるみで子供を育てる意識の低下を懸念する声と、雲浜地区に住んでいることに誇りを持ってほしいという願いが目立ちました。

- 地域の教育力の低下をどう防ぐか
- 歴史的、文化的、施設的に恵まれた地区に住む誇りを持ってほしい
- いろいろな年代の地域住民と交流するべき

問21:地域の子供育成のために何をやればよいと思いますか



- ①子ども会活動の充実
- ②スポーツクラブチーム作りと参加
- ③文化活動充実と参加
- ④地域のお年寄りとのふれあい
- ⑤親子で参加できる行事
- ⑥子育て相談室
- ⑦学校・公民館・集会所等の開放
- ⑧公園など子供が安心して遊べる場所の増加
- ⑨その他

■ いきいきまちづくりのために

遊びや学習の機会の提供と、あわせて、望ましい雲浜小学校のあり方を考える委員会の設置を提案します。



絵本の読み聞かせ



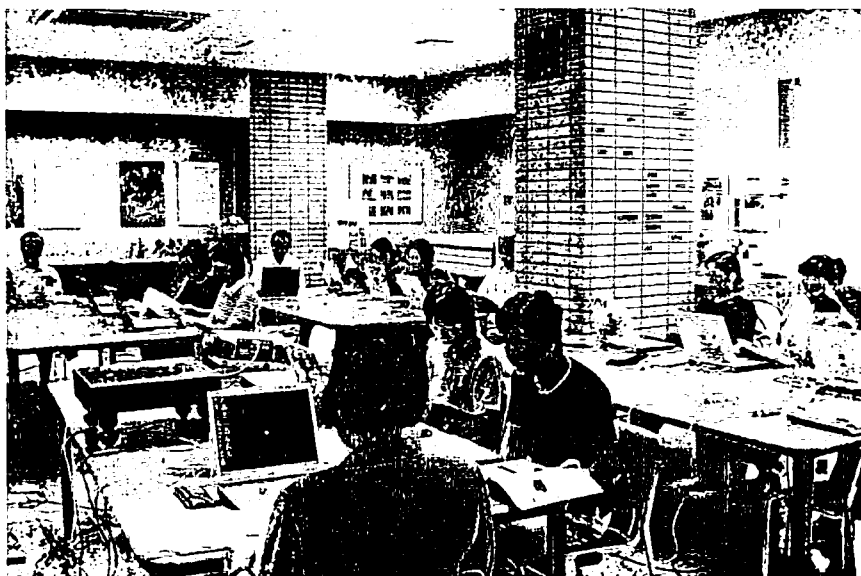
英語の授業

- ▶ 散策コースづくり
 - ◇ 地区内の史跡、偉人ゆかりの場所、神社などを結ぶ散策コース
 - ◇ コースを示すタイルなどを埋め込み、案内板を設置
- ▶ 子育て相談室
 - ◇ 公民館に設置する
- ▶ 昔遊びコーナー
- ▶ おふくろの料理教室、親父の工作教室など
- ▶ 雲浜小学校のあり方検討委員会
 - ◇ 住民が集まりやすく、バス、救急車などが入りやすい小学校とは
 - ◇ 将来の小学校、中学校の学区再編成への対応を考える
 - ◇ 地域の文化センターとして小学校の果たすべき役割とは

生涯学習の充実

■ 現状

雲浜地区は、小浜市で最も人口の多い地区です。住みやすく魅力的な地域でありつづけるためにも、住民一人ひとりがいきいきした人生を送るなかで、地域を愛し、連帯してまちづくりに取り組むことが必要です。



パソコン教室

■ アンケート結果

- 文化・スポーツ・余暇活動の充実に必要なもの
 - ◇ サークル・グループ活動の充実
 - ◇ 講座・講演会・演奏会などの充実
 - ◇ 文化・スポーツ活動に関する情報提供

■ いきいきまちづくりのために

「いつでも・誰でも・どこでも」という生涯学習の理念に立って、生涯学習に積極的に取組み、活力ある地域づくりを目指しましょう。

また、いきいきとしたまちづくりのためには、地域の自然、歴史・文化などを知り、郷土愛を育て、地域の連帯意識の高揚を図ることが必要です。

- サークル・グループ活動への積極的な参加を呼びかける
- 自然、歴史、文化など地域の良さを学ぶ
- 地域を特徴づける個性ある取組みを実施する

(例)「雲浜地区を絵のまちにするプロジェクト」

- ・絵を描く楽しみ、絵を見る楽しみのあるまちづくり
- ・絵を描くための安全な環境を整備
- ・コンクールなどを定期的に関催

男女共同参画社会をめざして

■ 現状

男女が、対等な構成員として、共に社会を築いていくには、互いの人権を尊重し、一人ひとりが自分の能力を主体的に発揮していく必要があります。

しかしながら、日常生活や社会習慣、しきたりなど多くの点で、男女差別や性別による固定的な役割分担意識などが根強く残っています。

雲浜地区は、若い人やアパート暮らしの人が多く、初めての女性区長が生まれるなど、他地区と比べるとそういう意識は薄いと思われませんが、アンケートでは男性優位との結果が出ています。

男性料理教室



■ アンケート結果

- 男女の地位が平等だと思いますか
 - ◇ 男性優遇、どちらかといえば男性 55%
 - ◇ 平等 14%
- 男は仕事・女は家庭という考えについて
 - ◇ 賛成、どちらかといえば賛成 39%
 - ◇ 反対、どちらかといえば反対 39%

■ いきいきまちづくりのために

家庭や地域社会、職場などで男女がお互いを尊重し、男性も女性もひとりの人間として充実した人生を送ることができる社会を目指して、身近なことから取組みをはじめる必要があります。

- 男女が学習し、意識改革に努める
- 男女を差別している古い習慣やしきたりをなくすことに努める
- 女性を団体の役員や委員に積極的に登用する

まちづくりのテーマ

健康で思いやりあるまちづくり

●健康づくり ●福祉のまちづくり



健康づくりの推進

■ 現状

医学の発達や生活環境の向上などにより、日本は世界一の長寿国になりました。その一方で、痴呆や寝たきりの高齢者が増加し、ガン、心臓病などの生活習慣病も増加しています。

肥満は生活習慣病の主原因と言われており、30代の80%前後が運動不足という状態です。また、忙しさにまぎれて食生活をなおざりにしていた反省から、近年、食事の重要性、食材の安全性に関心が寄せられています。

こうした傾向は今回のアンケート調査にも表れており、健康に気を使っている人は79%に達しています。

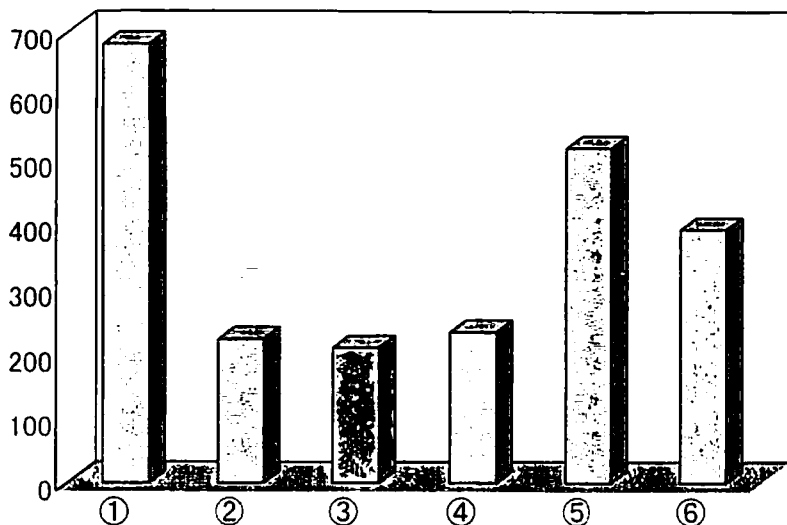
■ アンケート結果

- 健康づくりのため取り組んでいること
 - ◇ 食事と休養を十分にとる
 - ◇ 散歩などの日常における軽い運動を心がける
 - ◇ 酒・タバコなどをひかえ、規則的な生活を心がける
- 健康づくりへ望まれているもの
 - ◇ 健康診断の充実
 - ◇ 食についての情報の提供、指導
 - ◇ 健康づくりの機会の提供



健康診断

問30:健康づくりに重要だと思うこと



- ①成人対象健康診断の充実
- ②母親・子供対象の健康診断の充実
- ③保健相談・健康教育などの保健活動の充実
- ④スポーツ施設・公園・遊歩道などの整備
- ⑤健康づくりの機会増加
- ⑥その他

■ いきいきまちづくりのために

人生 80 年を明るく健やかに生きるには、若いときからの健康づくりが大切です。

そのためには、地区民一人ひとりが自分の健康は自分でつくる努力をするとともに、地区全体が健康に心がけることが大切です。



- 歩こう会などのグループをつくり、気軽に身体を動かす機会を設ける
- 公共施設の開放や相互利用を進め、いろいろなスポーツに定期的に親しめるようにする
- 体力測定を行ない、体力への関心を高める



- 専門家による講習会や健康料理コンテストなどを開催して、食の情報を提供する

思いやりのある福祉のまちづくり

■ 現状

核家族化・高齢化の進行とともに、高齢者対策がこの地区でも切実な問題になってきつつあります。高齢者にとってはお道の歩き方などの簡単なことでも理解しにくいものがある。来るべき高齢化社会に向けて、高齢者暮らしのまちづくりに心がける必要があると認識されています。

■ アンケート結果

- 福祉に必要とされていること
 - ◇ 子供たちへの福祉教育
 - ◇ ボランティア活動
- 高齢者が暮らしやすいまちに必要なこと
 - ◇ 高齢者の技術や経験を生かせる機会の提供
 - ◇ 福祉サービスの充実
 - ◇ 自然に親しめる場所

■ いきいきまちづくりのために

- 介護を考える場所の設置
 - ◇ 介護についての情報交換や、悩みごと相談ができる場所、機会の設置
- 福祉ボランティアの育成
 - ◇ 病院ボランティア、買物ボランティアなどへの積極的な参加
 - ◇ 福祉意識の向上
- 子供たちへの福祉教育の充実
 - ◇ 総合的な学習の時間など学校での福祉教育の充実
- 福祉サークルの育成
 - ◇ サークル活動の支援
 - ◇ サークルへの参加促進



中央公民館に整備された階段昇降機

巻末参考資料－１：小浜城のあらまし

関が原の合戦後若狭国に封じられた京極高次は、手狭で不便な山城の後瀬山城を廃し、慶長6年(1601)から小浜湾に臨む蜘蛛の浜(後の雲浜)に水城を築き始めました。

築城工事は南川の流れを変える工事などもあって遅々として進みませんでした。京極氏の後に大老の酒井忠勝が川越から入封して築城を継続し、江戸城の富士見櫓を模した三層の天守をあげるなど、寛永5年(1628)についに完成させました。



こうして明治の廃藩まで酒井氏14代の居城となり、明治4年(1871)には城内に小浜県庁が置かれました。

しかし同年12月城内に二の丸の工事現場から失火が発生、天守閣を除く城の大部分が焼失しました。

さらに往来の邪魔になるということで嘆願書が出され、本丸石垣の東側が取り壊されました。

そして明治6年、政府から廃城令が出され、城郭は売却されて天守閣も解体されました。内堀も埋められて二の丸以下の地区には人家が建て込んで、往時の面影はほとんどなくなりました。

その後明治8年、本丸跡に酒井忠勝を祀る小浜神社が創建され、また昭和31年には現存する本丸跡が福井県の指定史跡となり今に至っています。



